

# 高齢者との関わりを楽しむ幼児の育成 ～訪問に「ふれあい遊び」と「お話タイム」を取り入れて～



幼児教育班 酒井 芽久美 (幼稚園教諭)

## 実態と課題

- ・祖父母には高い関心を持っているものの、日頃から関わりが少ない。
- ・今までの訪問では、教師中心の見せるための活動になっており、気後れて幼児が高齢者に近付けずなかなか話せない姿が見られた。

## 手立て

- 高齢者施設訪問に2つの手立てを取り入れる。
- ＜ふれあい遊び＞  
スキンシップを図る簡単な遊びやゲームを取り入れる。
  - ＜お話タイム＞  
言葉で伝え合う場の設定をする。

高齢者との関わりを楽しむ幼児

## 実践1 (5歳児 5月) 第1回 高齢者施設訪問

- ＜手立て1 ふれあい遊び＞  
・手遊び(カタツムリ、カエルのうた)をする。



みんなで挨拶する様子

こんにちは！

かわいい手だね。



手遊びの様子

(ニコツとして)うれしいな…

- ＜手立て2 お話タイム＞  
・事前に作成した名刺カードを基に自己紹介をする。

私の名前は、〇〇です。

私の名前は、〇〇です。

へえ～、すごい！

私は90歳なんですよ。

幼稚園の子は可愛いね。

ペアになって会話する様子

訪問後「おじいちゃんの手はしわしわだったね」「ギュッって抱きしめてもらったよ」「ちょっと恥ずかしかったけど、優しくしてもらって嬉しかったよ」「心配だったけど、話せたよ」などと話をしていた。  
高齢者と実際に会って、高齢者の様子を知り安心した様子であった。

## 実践2 (5歳児 7月) 第2回 高齢者施設訪問

- ＜手立て1 ふれあい遊び＞  
・タッチ遊び、紙風船遊びをする。  
・高齢者に肩たたきをする。

おててをタッチ！

タッチするよ！

10回まで続けよう！

気持ちいいよ。ありがとう。



タッチ遊びの様子

頑張れ～！



紙風船遊びの様子

い～ち！にい！さ～ん！



肩たたきの様子

- ＜手立て2 お話タイム＞  
・自己紹介後、あらかじめ考えてきた質問をする。

～高齢者との会話から～

C:幼児 K:高齢者

C:何の食べ物が好きですか？

K:煮物とか好きだな。Cちゃんは、何が好き？

C:私、リンゴ。

K:何で好きなの？

C:あのね、青森におじいちゃんとおばあちゃんがいるの。リンゴを送ってきてくれるんだ！

K:へえ、いいね～。

C:一緒に遊んでくれて、ありがとう。

K:また、遊びましょうね。



訪問後 給食中などに「楽しかったね」「私が話したおばあちゃんは〇〇が好きなんだって！」「あ！私が話したおばあちゃんも同じ！」など伝え合ったり「今度、また一緒に紙風船遊びをしたいな～」「また、あの、おばあちゃんと遊びたいな」など話したりした。  
高齢者と一緒にする遊びを楽しみ、親しみの気持ちを持った様子であった。

## 成果

- ・「ふれあい遊び」では、高齢者との関わりを持つことに抵抗がなくなったり、相手の動きに合わせて対応しようとした姿が見られるようになった。また、「お話タイム」では、笑顔で話したりする幼児や高齢者の思いを受け止め、自分の思いを伝えようとしたりする幼児が増えた。
- このように、ふれあい遊びとお話タイムを取り入れることにより高齢者との関わりを楽しめるようになってきた。



## 課題

- ・高齢者施設の方との打ち合わせを、更に充実させ、高齢者にとっても、有意義な内容にする必要がある。